

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 県有文化施設等文化芸術振興補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

環境生活部県民文化局文化創造課企画係 電話番号：058-272-1111 (内 2455)

E-mail：c11146@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,000 千円 (前年度予算額：2,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,200	0	0	0	0	0	2,200	0	0
要求額	2,000	0	0	0	0	0	2,000	0	0
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

誇りあるふるさとづくりの推進をめざし、県有文化施設の活用推進及び自主事業の企画制作能力の向上等を図るため、(一財)地域創造が定める地域の文化・芸術活動助成事業の助成に関する要綱に基づき、予算の範囲内において岐阜県県有文化施設等文化芸術振興補助金を交付する。

(2) 事業内容

(一財)地域創造による各種支援事業において、一般指定管理者等による県有文化施設の文化・芸術活動等の事業に助成される場合、岐阜県から事業実施者である一般指定管理者等に、間接的助成を行う。

(一財)地域創造 ⇒ 岐阜県 ⇒ 事業実施者(指定管理者等)
(助成金) (補助金)

(3) 県負担・補助率の考え方

(一財)地域創造からの助成金により、全額充当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額(千円)	事業内容の詳細
補助金	2,000	OKBふれあい会館指定管理者が行うサラマンカホールオペラプロジェクト「不思議の国のアリス」への間接補助
合計	2,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画等での位置づけ

- ・「清流の国ぎふ」創生総合戦略
施策編 3 (1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

(2) 事業主体及びその妥当性

本補助金を受けて、ふれあいファシリティズが行う。ふれあいファシリティズは、県有文化施設(OKBふれあい会館)の指定管理者であり、実施主体として妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

補助事業名	岐阜県県有文化施設等文化芸術振興補助金
補助事業者（団体）	OKBふれあい会館指定管理業者 （理由）当業者は指定管理業者であり、補助事業の実施主体であることから適当である。
補助事業の概要	（目的） 県民に音楽や芸術に触れる機会を創出し、地域における文化・芸術活動の高まりを醸成する。 （内容） ◆サラマンカホールオペラプロジェクト「不思議の国のアリス」 コンサートホールでのオペラ、日本語によるオペラ、子どももおとなも楽しめるオペラということをテーマに木下牧子作曲「不思議の国のアリス」を地元の歌手、オーケストラで上演することで地域のオペラ活動の活性化を図る。
補助率・補助単価等	定額・定率・ その他 （内容）県10/10 （理由）実質的には県費の負担がない補助金であり、県費の全額負担としても不利益が生じないため
補助効果	事業によって県文化の発展・継続が見込める
終期の設定	令和3年度

（事業目標）

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

誇りあるふるさとづくりの推進をめざし、県有文化施設の活用推進、自主事業の企画制作能力向上等を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H19年度末)	目標 (R3年度末)	目標 (終期)
	-	-	-

※ （一財）地域創造助成事業を活用した県有文化施設の事業数は一定で評価指標とすることが難しく、また企画制作能力は定量的に評価できないため、指標の設定はできない。

	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度	R3 年度 (要求)
補助金交付実績	1,000 千円	1,500 千円	5,900 千円	2,200 千円	2,000 千円
指標①目標					
指標①実績					
指標①達成率					

(前年度の成果)

新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた公演が中止。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(一財)地域創造の助成金を有効に活用し、県有文化施設の利活用を促進するため、今後も引き続き、一般指定管理者等の当該助成金申請を促すことが必要である。

(事業の評価)

・事業の必要性 (社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か)

○：必要性が高い、△：必要性が低い

(評価)

○

本予算措置がなければ、県有文化施設の文化事業に係る(一財)地域創造からの助成を受け取ることができないため、予算措置が必要である。

・事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている

△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

—

・事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか)

○：効率化は図られている、△：向上の余地がある

(評価)

—

(事業の見直し検討)

県有文化施設の利活用を推進するとともに、施設が地域において自主的に実施する文化・芸術活動を支援し、事業コンテンツの質を高める意味で、今後も継続的に事業を実施することが妥当と思われる。

(終期到来時の翌年度以降の事業方針)

--